

大祖堂(右)と佛殿(左)



山門(三門。禅門における七堂伽藍の一。山林王、木原崇雲氏(故人)がヨシ夫人の冥福を祈っての寄進。)



僧堂(坐禅堂、禅林の修行の中心。僧形の文殊菩薩を安置。間口11間、奥行9間。昭和8年12月開堂。)

春浅い三月、総門（通称三松関、石川素童禅師筆「三樹松関」の扁額がある。大正九年建立）脇にある安下所あひげで、これから本山で修行の第一歩を踏み出そうとする若い僧侶が、身仕度をととのえて参道を行く。四月の授戒会には全国から随喜の寺院ご住職や参拝の檀信徒で、さしもの広い本山伽藍も人びとであふれかえる。境内の樹木が緑陰を濃くする夏、いちよの葉が鮮かな黄色に変わる秋。朝夕の冷たさに初冬を覚える頃、僧堂のまわりに凜とした空気が漂う臘八摂心。除夜の梵鐘の音とともに新年が始まり、一段と修行の厳しさが増す寒中托鉢。雪の日、すっかりその様相を変える本山の境内地は、まるで深山幽谷の静けさ。ひととき、都会の喧噪を忘れさす。

十五万坪の境内地に五十余棟の堂宇。大都会の真唯中にありながら、見事に四季折々の風情を感じさせてくれる大本山總持寺。禅の道場として日夜修行に精進するところであり、全国各地から参詣や参禅に訪れる人びとが多い。



▲香積台（禅林の食事を調理する庫裡。正面奥に大黒天を奉安。平成二年まで本山の玄関「総受付」があった。大正九年建立。）

◀ 大鐘楼（山門左小高い双眸丘ふたみがおかに建つ。寺院では珍しい公募の図案で、大正四年建立。）





佛殿（典型的な禅宗建築で大雄宝殿ともいう。
釈迦如来像を本尊とし、脇侍に大迦葉、阿難尊者像を安置。大正四年建立。）







大祖堂（客殿型法堂で、中央には開祖盤山禪師、二祖峨山禪師、永平寺開山道元禪師および
總持寺五院列祖の尊像尊牌を奉安。昭和四十年盤山禪師六百五十回大遠忌建立。）



大本山總持寺

総門から参道 山門を見る。